

DREAMING No.7

令和6年7月8日
長崎市立福田小学校
学校だより
校長 寺田 成広

心を満たし、夢や願いを叶える学校 ～見つめよう 認めよう～

子どもたちの命を守り育てるために

私たち大人が最も優先すべきことは、「未来ある子どもたちの命を守り育てること」だと言えます。

しかしながら、21年前に中学生が4歳の子の命を、翌年には6年生の子どもが同級生の命を奪うという衝撃的な事件が本県で起きてしまいました。亡くなった子どもさんやそのご遺族の無念さや悲しみは想像することすらできないほどに深く、大きかったと思います。

「命を守り育てる」ことが何より大事だと分かってはいたものの、その意識は日常に埋もれていなかったか、また、加害者を生むような社会、家庭、学校ではなかったのかと、大人へ課題を突き付けた事件でした。慌ただしい日々の中で、いるのが当たり前の子どもたちですが、その心の中をしっかりと見つめることを怠ってはいけなかったと考えさせられました。「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、あのような事件がもう起きないように、子どもたちの心に向き合う期間だと捉えています。

以下は、教育週間初日に全校集会での講話で子どもの命について、私なりの思いを込めて作成し、語った内容です。（原稿を読んだわけではないので、言い回しが違っている点があります。）

.....

福田小学校の児童の皆さん、こんにちは。

梅雨に入り、しばらくは雨が続きそうです。湿度や気温が高く体調を崩しやすい時期です。1学期も、あと1か月を切りました。熱中症予防など体に気をつけて残りの1学期の学校生活を乗り切ってください。

さて、今日から始まった「長崎っ子の心を見つめる教育週間」にあたり、校長先生から一つだけお話をします。その一つとは、「子どもの命」繰り返します「子どもの命」についてです。

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、21年前に中学生が4歳の子の命を、その翌年小学6年生の子どもが同級生の命を奪うという、あってはならない悲しい事件が起こったことで始まりました。子どもたちが、命についての考えを深める機会とし、大人が子どもたちの命を守り育てるために、子どもたちの心が満たされているかを見つめていこうというねらいがあります。



今から、校長先生が実際に経験した「身近な子どもの死」について話をします。

当時校長先生は、ある学校の6年1組担任でした。となりの2組はA先生が担任し、そのクラスには、B子さんという小さいときから心臓の病気を患っている女の子がいました。病気はかなり重く、学校に登校する日は1年に数日だけという状況でした。実際4月に新しい学年がスタートしましたが、その時Bさんは入院中で、初めて会えて挨拶したのが6月になってからでした。しっかりした受け答えができる子で、「入院は大変だけど、病気を治して6年生のいろいろな行事に参加してね。」などを話しました。

でも、翌日から体調が悪くなり学校を欠席して、数日してまた入院したとの連絡がありました。入院は1学期の残り、夏休み、2学期が始まってもしました。そのうちに、B子さんのことを話題にしたり、どうしているかなあと考えたりすることも減っていきました。

10月始めの頃の金曜日の夜でした。2組のA先生からの電話を受けました。「B子さんが先ほど亡くなりました。明日お通夜です。」という連絡でした。突然のことに、言葉を失うほど驚き、もう会えない現実を信じられないと思ったことを覚えています。

翌日、浦上にある大きな教会でお通夜のミサが行われました。学校からは、6年生の子どもたちや先生方が参列しました。わずか12歳で死を迎え、B 子さんが棺の中に入っている現実、とてもとても悲しく、心が重いミサでした。大人にとって、子どもが亡くなることは本当に辛いことだと痛感しました。もちろん同級生の子どもたちも皆、友達を失った悲しみは深く、泣きじゃくる子がたくさんいたのを覚えています。

ミサが終わって、B 子さんのご両親とお話をしました。入院中の B 子さんは、「早く良くなって学校に行きたい。友達や先生に会いたい。」とよく言っていたと聞きました。その言葉を聞いたとき、「そんな思いをもっている B 子さんのことを、『毎年のように、病気が少し良くなったらまた学校に来るだろう。』と寄り添っていなかったことに、心から申し訳なく思いました。学校の先生として、また大人として何しているのだと深く反省しました。

それ以来、子どもたちの思いをもっと丁寧に受け止めようとしてきました。もちろん、福田小学校の全ての先生方も同じように、「子どもたちに寄り添って、一人一人の心が満たされているかを見つめていこう」と思っています。子どもたち同士でも、友達の心が満たされているかを見つめ合ってほしいと思います。ぜひ、皆さんと先生たちで力を合わせて、全ての人が安心して過ごせる、互いに認め合う福田小学校をつくっていきましょう。

お話の最後をお願いを二つします。

一つ目です。みなさん、自分の命を何よりも大切にして、大人からたくさんの愛情を受け取ってください。そして、たくましく成長し、未来の立派な姿を愛情をもらった人に見せてください。そのためには、愛情をもらった大人より早く命を落としてはいけません。将来にわたって、どんなことがあっても、生きてってください。

もう一つ、あなたの周りにいる友達も、あなたと同じようにたくさんの愛情を受けて、未来を期待されている子どもです。相手が嫌な気持ちになる悪口や暴力は絶対にしないで、相手の思いを分かろうとすることに努めてください。

蒸し暑い中に、最後までしっかりお話をきいてくれてありがとう。

これで、校長先生からのお話を終わります。

.....

長い文章でしたが、最後まで読んでくださりありがとうございました。

子どもたちの命を守り育てるための熱中症対策について

気温、湿度とも高い日が続いています。現在学校で最も気を配っているのが、熱中症の予防対策です。ご存じのとおり、熱中症は重度になると意識がもうろうとなったり、呼びかけに反応しなくなったりするほど危険で、命にもかかわるほどです。

学校ではWBGT（暑さ指数）測定器で常時熱中症の危険度を測定しています。子どもたちの命を守るために、今後も慎重に監視を続けます。⇒ <https://x.gd/BNBfw>

2点お願いがあります。

① 水分補給のための水筒持参は、毎日確実にお願いします。もしお子さんが持ってくるのを忘れた場合は、ぜひ学校に届けてください。

② 日光が強い中で、帽子をかぶらずに登校、休み時間の外遊びをしている子がたくさんいます。

外気温30℃ で5分間日なたにいた場合、帽子ありとなしでは約10℃頭の温度が違うそうです。

（出典：ウェザーニューズHP）



ぼうしをかぶろう！



予防効果が大きいので、着帽を強くすすめてください。